

平成23年度当初予算案主要事項説明

教育委員会

事業名	子どものための京都式少人数教育推進費											
予算額	8,069,532千円	新規・継続の別	新規／継続									
事業内容 (目的) 対象 方法等	1 目的 義務教育9年間を見通し、児童生徒や学校の実態に即して必要な教員を配置し、一人一人の児童生徒に確かな学力を定着させる。											
	2 内容 (1) 京の子ども・少人数教育推進費（拡充）											
	<table border="1"> <tr> <td>予算計上額</td> <td colspan="2">7,418,643千円</td> </tr> </table>			予算計上額	7,418,643千円							
	予算計上額	7,418,643千円										
	○小学校3～6年生で30人程度の学級編制が可能となるよう教員を配置 ○配置した定数を活用し、市町村教育委員会が学校や児童生徒の状況に応じて少人数授業・チームティーチング・少人数学級を選択して実施											
	<table border="1"> <tr> <td>少人数授業</td> <td colspan="2">児童生徒を習熟度別・課題別等に分けて、少人数授業を展開</td> </tr> <tr> <td>チームティーチング</td> <td colspan="2">学級に複数の教員が入り、連携して授業を展開</td> </tr> <tr> <td>少人数学級</td> <td colspan="2">市町村の判断により、40人を下回る人数で学級を編制</td> </tr> </table>			少人数授業	児童生徒を習熟度別・課題別等に分けて、少人数授業を展開		チームティーチング	学級に複数の教員が入り、連携して授業を展開		少人数学級	市町村の判断により、40人を下回る人数で学級を編制	
	少人数授業	児童生徒を習熟度別・課題別等に分けて、少人数授業を展開										
	チームティーチング	学級に複数の教員が入り、連携して授業を展開										
	少人数学級	市町村の判断により、40人を下回る人数で学級を編制										
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">新規</td> <td colspan="2"> 中学校少人数教育推進費 中学校への少人数教育の導入に向け教員配置を充実 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ①全ての中学校で35人を超える学級規模の解消 又は ②英語・数学を中心とした習熟度別授業の充実が可能 </td> </tr> </table>			新規	中学校少人数教育推進費 中学校への少人数教育の導入に向け教員配置を充実		①全ての中学校で35人を超える学級規模の解消 又は ②英語・数学を中心とした習熟度別授業の充実が可能					
新規	中学校少人数教育推進費 中学校への少人数教育の導入に向け教員配置を充実											
	①全ての中学校で35人を超える学級規模の解消 又は ②英語・数学を中心とした習熟度別授業の充実が可能											
(2) 小学校低学年指導充実費（継続）												
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">配置学級数</td> <td>1年</td> <td>約 306学級</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>約 352学級</td> </tr> <tr> <td>予算計上額</td> <td colspan="2">650,889千円</td> </tr> </table>			配置学級数	1年	約 306学級	2年	約 352学級	予算計上額	650,889千円			
配置学級数	1年	約 306学級										
	2年	約 352学級										
予算計上額	650,889千円											
○小学校1・2年生で、2人の教員による指導を実施 ○配置については、30人を超える学級を基本とするが、各学校の状況等に応じて弾力的に運用												
(3) 教職員定数の改善												
○小学校1年生で35人以下学級が編制できるように義務教育費国庫負担制度により予算措置												
担当課名	教職員課 学校教育課	人事担当 指導第1担当	課・担当 電話番号 075-414-5799 075-414-5833									